

ミカン営農再興へ

— 愛媛県宇和島市 —

(株)チェリーコンサルタント 近田昌樹

1. はじめに

2018年7月の「平成30年7月豪雨」、通称「西日本豪雨」では、愛媛県をはじめ中国四国地方は大きな災害を被った。土砂崩壊、土砂流と洪水浸水被害が中心で、広島・岡山・愛媛県をはじめ全国で死亡者は237人にのぼった。

表紙写真の農地がある宇和島市では、死傷者42人、住宅被害1,780件や上水道の断水等のライフライン被害、産業被害は279億円で、うち農業は被害額209億円、農地・農業用施設災害は、2,438カ所にのぼる。当該農地は、幅37m、長さ130mが崩壊した。

それから3年、ようやく農地・農業用施設の復旧が進み、写真のように急傾斜のミカン園では営農が再開され、生産資材やミカンを運ぶ農業用モノレールが動き出した。再興への一歩である。

2. 地区の概要

当該地区は、宇和島市吉田町にある。宇和島市は、愛媛県の西南部に位置し温暖な気候で、九州と四国に挟まれた豊予海峡に面し水産物の豊かなところである。ただ、地形は急峻でリアス式海岸特有の山から海に入るようで、農地の多くは急峻な山肌に棚田、段畑、山成畑が作られていた。

特に吉田町は山成畑が多く、平均傾斜度約30°の斜面農地でミカン栽培が主である。農作物の栽培には重労働となる農地であったが、先人がミカンに着目し、みかん県「愛媛県」の中でも早期に栽培されだした地域で、高収益をあげていた。一時期、ミカン価格の低迷により離農や後継者不足による廃園化の危機もあったが、数年前からは販売価格の安定により、後継者やIターンによる若手農業者が増えてきていたところに、災害が襲った。

しかし、若手を中心に営農再開、農業復興の機運が高まった。行政やJAの支援もあり、災害前の農地に復旧させるだけでなく、以前よりも栽培条件を良くし、より農業農村振興を行う再興へ向けて足取りを確実なものにしている。

3. 災害復旧工事

当該地区は、海岸沿いを通る国道378号線から尾根に向かって開かれた柑橘園地であり、平均斜度27°と急勾配である。図-1の下部の白い部分が国道に面する駐車帯であり、図面右上に向かって標高が高くなる。中腹にある白い部分が市道で、その上部30mの箇所が崩壊の先端である。面積は約30aである。

図-2は市道より下部の縦断図だが、被災前の勾配は27°もあり、農地災害復旧事業の採択にかかる20°を大きく上回る。

復旧工法は、高さ50cm、控え1.2m、長さ2.0m

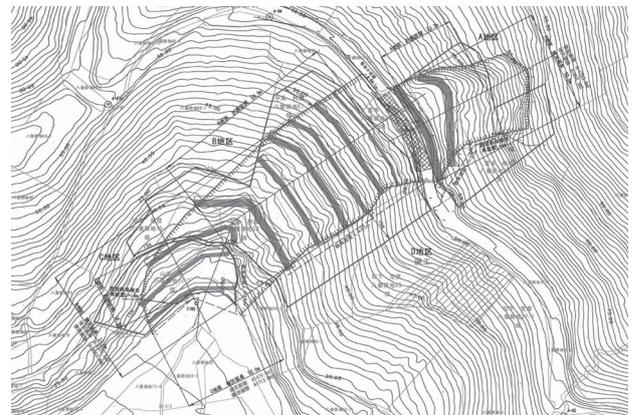


図-1 農地・農業用施設災害復旧事業の平面図

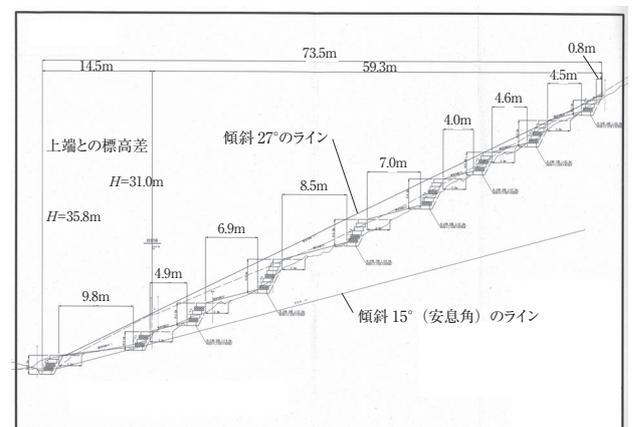


図-2 農地・農業用施設災害復旧事業の縦断図（市道まで）

のかご枠工で擁壁を積み、農地面は15°で復土している。因みに急傾斜とは、「急傾斜地の崩壊による災害防止に関する法律」では30°以上とされ、農林水産省の中山間地域等直接支払制度の超急傾斜農地保全管理加算では、畑では20°とされている。

写真-1, 2が復旧農地(表紙写真)の上からの俯瞰と横から撮影したものである。写真-3は市道より上部の復旧状況である。写真-1の左の車が見える2車線が国道でその横に海が広がる。復旧された農地は、下段からミカンの苗が各農地面に1~3列植えられている。

農地の各テラスには、園内道が接しないことから運搬は軌道工(モノレール)となる。モノレールの復旧整備は、「果樹経営支援事業」等で対応されているようである。被災農地の両側の農地にはスプリンクラが設置されているので、当地も灌水は可能であろう。

表紙写真の一部に写る苗を囲むシートは、購入した肥料の空袋等を活用している。風よけや苗木に草が絡まないようにする、虫よけ、保温効果があるとのことである。園地や栽培方針により選択されるとのことである。温州ミカンは、収穫時期により極早生・早生・中生・晩生と分けられるが、吉田町の主力品種は、中生の味の濃さ(コク)が特徴の南柑20号で、愛媛県の主力品種の一つであり、11月下旬から12月下旬にかけて出荷される。ただ、ミカンは苗の定植から本格的な収穫まで7,8年かかるため、復興にはまだまだこれから長い期間を要する。

4. 再興に向けて

これまで復旧した農地について紹介したが、宇和島市では、いまだ復旧工事を行っている所が多く、河川・道路・水道施設をはじめ農地・農業用施設も従前に復旧した状態ではない。

こうした中で、愛媛県では、災害復旧関係法にある原形復旧や災害関連事業を含めた一体的復旧(愛媛県呼称「改良復旧」)以外に、「再編復旧」として被災した農地だけでなく周辺農地も一体として緩傾斜に造成し、農道・灌水施設とあわせ担い手農家へ園地を集積する樹園地の圃場整備を行うことを提案し、宇和島市内2地区のほか県内2地区で実施することになっている。災害を契機に新たな農業への取組みである。

愛媛県の農業は、専業からいえば柑橘農業が主になっている。現状は多品目化による高級化と主たる温州ミカン単価の安定により経営の見通しは立っており、今後の課題は、営農の後継者問題と労働強度の軽減、労働生産性の向上である。解決の一步となることを期待したい。

5. 宇和島市

最後に復旧に向け頑張っている宇和島市の見どころ



写真-1 復旧された農地(中腹にある市道からの俯瞰)



写真-2 復旧された農地(北側の横から;上部白が市道路肩)



写真-3 復旧された農地(中腹の市道より上部)

等について簡単に紹介をしたい。

まずは、重要文化財でもある宇和島城、また重要文化的景観に指定されている遊子水荷浦の段々畑が良い。急傾斜のミカン園も体験型である。

食品では、宇和島鯛めし、じゃこ天、温州ミカン・ポンカン・セトカ等の柑橘、また、養殖業が盛んで真珠、鯛、ブリが特産である。闘牛と、牛鬼祭りとして有名な和霊大祭のイベントや道の駅「きさいや広場」がおすすめである。